

# かがやき入野ホーム 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「困ったときはおたがいさま」をモットーに、認知症になった人やその家族が安心して暮らせるまちづくりを目指し、住み慣れた地域、家族、友達がいるまちで老後も安心して暮らしたいという当たり前の望みを実現させ、支えるため、地域の人々と協力連携していくという理念のもとに、日々サービスを提供している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	学習会、朝礼、入職時のオリエンテーションなど機会のあるごとに理念を振り返り、日常的業務の中でどのように実践していくかを考え、話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見学に来られた時や契約の際にはホームの理念をお話しし、理解してもらうよう努めている。また施設見学の受け入れや研修生、家族会、ふれあいまつり、近所のお年寄りとの談話、ホームでのボランティアの方々とのふれあいを積極的に行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中に会った人々との交流、畑や田で働く人々との会話をし、お茶を飲んでいただくなどしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時、家族の案内でお墓参りや、なじみの美容院に行ったり、ドライブで思い出の場所に出かけている。他に近隣の産直所等での買い物や、祭りの開催、小学生や幼稚園児の来訪、運動会への招待など。また地元の様々なサークルの方々に来所してもらい、一緒に踊りを楽しんだり歌を歌ったりして、交流を行なっている。	○ 広報を参考に町の行事に参加したり、文化祭、介護教室の開催にも取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所に住むお年寄りの困り事がある時、ホームで話し合いをしている。「今日の曜日がわからない」、「ケガをした」、「電器具がこわれた」、「電話番号調べ」など	○	介護や認知症について相談や問い合わせ等に対応できるよう、看板を見やすい所に設置するなど、ホームの内容を分かりやすくしていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活用し、改善点を検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価の報告を必ず行い、ホームの方針や実際として外出の様子、事例発表、認知症についての話など行っている。		平成21年6月より2ヶ月に1度の運営推進会議を定例化している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会のあるごとに市役所や支所の指導を仰いでいる。	○	運営や介護現場の状況、その他の相談など積極的に市町村に働きかけ、情報を共有しながら介護の質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者研修などで権利擁護の制度を学んでいる。	○	成年後見制度や権利擁護制度について、学習会等に参加勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止シンポジウムに参加、職員全員に資料配布と当日の報告を行なっている。	○	日々の介護において、その都度指導している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時、家族の面会時等、機会ある度に運営規程、重要事項説明書等を用いて説明を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と連絡を密にし、意見や不満があれば承っている。会話が可能な利用者には職員が聞き、ケアに生かせるように話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、利用者と過ごす時間とは別に、時間を持ち、報告している。面会されない場合は、電話連絡等で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が、家族会や利用者との面会時に(項目13と同様)ホームでの様子を聞き、提案、意見を出しやすいようにしている。意見箱を設置し、意見などをホーム運営に反映させている。また、ホームの広報紙の紙面でも報告している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、ミニカンファレンス、チーム会で、意見を聞いている。また個別に面談の機会を持ち、意見を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院時、家族の都合がつかない場合等は、職員間の連絡、話し合いをして、勤務調整をしている。同一法人の他事業所の職員に応援をってもらうこともある。(自動車の運転など)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は1～2名程度にしている。やむを得ず離職する場合は、事前に余裕を持たせ、利用者が不安を持たないよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、自己チェック表を提出してもらい、できている、できていない点をチェックしてもらい、先輩職員と働きながらのトレーニングをしている。内外の研修に参加させている。	○ 職場内での研修会や学習会を行い、さらに職員の質的向上を図っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会、社会福祉協議会、認知症の人と家族の会など主催する研修に参加し、交流している。職員研修でグループホーム間の職員交流計画(お互いのグループホームを訪問し合う)が予定されているので参加したい。	○ 今年度は職員交流ができなかったので来年度は予定を立てたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面談を行なっている。また食事会や親睦会等を開催して、悩みや思い、希望などの話をする機会を増やしている。チーム会での話し合いは日頃の思いやケアの工夫を語る場になっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月のチーム会では学習会の資料づくりや、読み合わせ、利用者の誕生会の企画を担当するなど、その人の持っている経験や能力が生かせるよう配慮したり、要望等の把握に努めている。	○ 話し合いの場を増やし、職員個々状況を把握したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の言ったことやしぐさ、表情などから本人が訴えようとしていることをしっかり受け止め、その方の認知症の特徴を伝え、その方の生活歴をよく聞きとって、入居してどのように生活していきたいのかを把握する。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に本人や家族の立場に立ち、家族の思いをしっかり受け止め、信頼関係を築くよう努力している。利用者家族で構成している家族会の存在を知らせ、思いや悩みなど気軽に話し合うことができるよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が現在の生活の中で、何について困っているのか本人の様子をうかがいながら、どのようなサービスが必要なのか検討する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	景色、庭、植物、動物など、ホームの周囲にあるものすべて含めて、ケアのはじまりと考え、その都度、安心できるような環境、雰囲気をつくるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの様子を家族面会時に野菜の皮むきや洗濯物の作業を一緒に行うことで、共に生活していると実感してもらえよう工夫している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を家族面会時に報告したり、本人の作品を家族にみてもらい、安心してもらう取り組みをしている。家族にかつての本人の姿を教えてもらいながら話題づくりをするなど、家族とホーム職員は一緒にケアをしているということを認識してもらえるよう努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、食事、お墓参りなど、家族と一緒に過ごす時間を作り、家族といつまでも良い関係が結べるように、協力をお願いしている。また、家族にかかりつけ医の受診対応をしてもらうなど、本人と家族との関係を築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた自宅や畑、場所へのドライブ、散歩をしたり、近所の人々とのふれあいを大切にしている。また馴染みの人にはホームにも遊びに来てもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々に認知症の差が大きいですが、利用者が孤立しないようにテーブルの配置を考えたり、共同作業がしやすいよう配慮している。他の利用者の部屋を訪問し一緒にお茶飲みができるように配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人のサービス利用が終了しても、ボランティアとしてホームの手助けをしたいという家族があり、関係を続けている。特に元家族の申し出が多い。行事へのお誘いもしている。入院された後も病院に訪問し様子を聞くなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「行ってみたい、食べてみたい、着てみたい、」など、希望は広範囲にあるが、日頃の会話から実現可能なことからひとつずつ実施している。故人であっても、「会いたい」などの希望があれば、過去の思い出を聞かせてもらい、本人と共有する努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人、本人からの話を聞くことで、生活歴やなじみの暮らし、特に家族からの情報を重要と考え、把握に努めている。おかいこ、酪農、畑仕事、クリーニング、料理店の勤めなど、利用者のかつての生活を思いながら、本人と職員が想いを重ねるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本情報(生活歴、職業歴)をもとに、グループホームという共同生活者としての本人は何ができて何ができないかという把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月末に行われるまとめ、カンファレンス、チーム会で意見やアイデアを出し、ふりかえり、介護計画に反映させている。日によって本人の状態(仕事、会話)が変化することが多々あり、柔軟な対応が求められるため、その都度変化に応じた話し合いを持っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化の状況を見極め、新たな計画を立て、家族に近況を報告し、現在の利用者の状態が理解してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に変化があれば、まず介護日誌に記録し、個別のケア記録にも記録をし、申し送りをして情報を共有し、これらをもとに変化に即した介護計画の見直しに生かしている。必要に応じてミニカンファレンスをし、プランを見直す機会にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族が持っている要望等を実現するために努力している。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域清掃活動などには職員が参加している。ボランティアによる歌、踊り、手品等を楽しんでいる。近くの学校幼稚園児がホームを訪れ、交流している。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーと研修を受けたり情報交換をしている。福祉用具の相談を業者と話し合いアドバイスを貰っている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからの相談、問い合わせに協力している。	○	多様なニーズに応えるため、地域包括支援センターへの相談を密にしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医があれば入所後も継続してもらう。定期受診を家族と一緒にしてもらっている。家族が対応できない時や緊急時は、家族と連絡を取りながら対応している。突発的な病気には家族と連絡を取り合い対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院時の情報提供は、入院と同時にやっている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけ、またホーム内での職員同士の会話等を注意している。申し送り等は、イニシャルや愛称に変えて、特定できないよう配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「今日の入浴したい」「散歩に行きたい」などの要求があれば、できる限り添うようにしている。要求のできない人に対して、本人の表情や家族や友人からの情報を得ながら、本人の気持ちに添うようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候に合わせて、ドライブや散歩に行っている。「家に帰りたい」と希望があれば、家族の協力を得て希望が叶うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と一緒に美容院に行く機会を設けたり、本人の希望があれば、スタッフがカットしている。入浴後の着替えは、本人に選んでもらう。できない人は、季節など考慮して職員が組み合わせている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜(ふき、じゃがいもなど)の皮むきをしたりしている。職員と一緒に、テーブルの上で作業している。	○ 台所に入って一緒に料理をつくるように今後取り組みたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はたばこやお酒を要求する人はいないが、一人ひとりの気持ちや要求を大切にしながら、嗜好品をその都度日常的に提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄リズムを知り、早めのトイレ誘導や声かけを行っている。トイレに座ってられる人はなるべくトイレを使用している。本人の様子から「トイレに行きたい」という意思を察知したら、その都度トイレに案内している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりに合わせ、本人の希望により体調、時間帯、湯かげんなど希望を取り入れて入浴を楽しめるように工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠者には温かい飲み物を用意したり、人形と添い寝したりして、安心して眠りにつけるようにしている。(冬は湯タンポを使用している)		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器の片付けなど得意なことを自発的に行っている。職員は「ありがとう」などの言葉で感謝し、皆で助け合いながら共同生活している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の食べたいもの(おやつ)があれば、職員と一緒に買い物に行ったりしている。ハガキや切手を買に行く時もある。	○	代金は職員がかわりに支払うが、実際に本人が店でお金を払う場面も作っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は近所に散歩に行ったり、季節の花を求めドライブに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	親戚宅へ行ったり、自宅への家庭訪問、墓参りなど、また回転寿司等などの外食も行っている。特に、誕生会には、本人の希望を叶えるようにしている。家族との外食も楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡を取りたいと希望があれば、本人自ら電話をしたり、手紙を書いてもらっている。	○	家族への手紙を書いてもらい、絵や名前だけでも交換できるように取り組みたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	認知症が重度になっても、いつでも気軽に会いに来てくれる家族や友人等との交流を大切にし、ゆっくり話したりする場を提供している。また訪問してくれた方々に、「昔の話を教えてください」と職員も積極的にお願いしている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていないが、ベッドから転落の危険性がある時は、ベッド柵を使用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけていない。本人が自室側から鍵をかけることもあるし、声かけ、ノックをして、様子をうかがうようにしている。防犯上、外部からの侵入者のことも考えられるため、夜間だけは玄関に鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が安全に過ごされているか、職員同士が所在、様子を把握し、声かけをしている。プライバシー配慮しながら見守りをしている。	○	夜間も利用者の安全を確認するために、声かけ、ノックをし、訪室している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	作業上必要な物品、はさみ、刃物などは職員が見守りながら使用してもらい、普段は台所や文具入れに管理している。	○	テーブル上に、花瓶、鉢を置いているが、花を食べたくなる人もあり、位置、距離など考えて置いている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活上のリスクを学び、現場に役立てるようにしている。ヒヤリ・ハットの記録、事故報告書に記録し、再発を防止するとともに今後の予防について具体的に検討し、対策を立て事故防止に取り組んでいる。	○	足元のふらつきが強い人には見守りや介助をしている。動線を考え、手すりを設置している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時は、手当、対応マニュアルに添って行動している。	○	救急救命法の学習、研修に参加しているが、ホーム内での定期的な訓練にも取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時、近所に住む職員の応援や消防に直通連絡ができるように整備している。	○	地域消防署による消火訓練に参加するとともに、近所の人々の協力が得られるよう、日頃から地域での話し合い等の取り組みが必要と考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体機能の低下、認知症状の進みによって起こり得ることを家族に説明している。(ヒヤリ・ハットの記録を参考にしている)	○	日々、起こり得るリスクについて、予測し、事故を防いでいけるように繰り返しミニカンファレンスを行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	声かけ、顔色、歩行など、観察し、速やかにバイタルチェックを行い、看護師へ連絡をし、対応している。健康管理マニュアルに添って行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能を記載したものをファイルに綴り、常に確認できるようにしている。症状によっては主治医に相談している。受診時は「おくすり手帳」を持参している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分、繊維の多い食材、牛乳などで工夫しているが、どうしても便秘気味の人には、主治医と相談して処方されている薬を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後の口腔ケアは実施している。口を開けにくい方には、お茶をガーゼで食べカスを拭き取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えている。自分で水分をとりにくい利用者には、水分摂取表を用いて水分量確保している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの励行をはじめ、早期発見、早期対策につとめ、保健所などから配布される予防のパンフを職員に配布したり、医師と相談しながらホーム全体で予防接種等を行なっている。 次亜塩素酸ナトリウムのうすめ液を作り清掃時に消毒薬として使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は鮮度の確認、賞味期限のチェック、先入先出の徹底管理をしている。 調理用具、皿などは熱消毒している。 台フキン、調理器具は漂白剤処理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関あがりに長椅子を置き、履き物を替えやすいようにしている。 玄関には鍵をかけず、いつでも出入りできるようにしている。 また花を飾ったり写真を展示したり、親しみやすい空間づくりを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい日はベランダに椅子を出し、日光浴をしている。 季節の飾りつけや、テーブルの配置等を変えたりし、居心地よく過ごせるよう配慮している。 テーブル、トイレ、玄関に花を置くなどの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、椅子など複数用意し、寛げるスペースづくりを行なっている。二～三人でソファを使ってゆったり過したり、ピアノのまわりに集まったり、天気の良い日にはベランダに出て外気浴をするなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は今まで使っていたもの、家族の写真(故人の写真も)や仏壇のある方もいる。思い出の品々なので、昔の話をたくさん聞くことができる。ホール、自室、浴室、庭の花など居室に飾っている。 本人の作品を飾りご家族にも見ていただいている。	○	家族の協力を得て若い時の写真でアルバムづくりに取り組みたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度、湿度計を設置し、目安にしている。なるべく外気に触れるようにしている。ホールは常に換気し、時間帯、天候によっては換気扇を回している。トイレは外気を入れるようにしている。冬は加湿器を使用し乾燥を防いでいる。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内では手すりを設置したり、屋外では玄関周辺のアスファルトを柔らかいものにして危険防止に努めている。一人ひとりの身体機能に合わせ、できることはしていただく、できないことは臨機応変に手助けができるよう、常に職員の意識を磨き、安心安全の生活が送れるよう努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を事実として受け止め、本人の中で何が起きているのか、なぜそうなるのかを考え、毎日ミニカンファレンスを開いて工夫をしている。例えばトイレの表示とか居室の場所の目印など、利用者の目線、立場にたって工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りは田畑、農道あり、散歩を楽しむ。働く人との交流あり。庭の花、草むしり、ベランダ、日光浴、戸外の景色、外気浴をしている。 庭にも椅子やテーブルを置き、お茶を飲める空間を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「人間らしくすこやかに老いたい」「基本的人権を守る視点を大切に」の理念をかかげ、お年寄りの生活のお手伝いをしています。日頃の業務に精いっぱい取り組み、職員全体で「人間らしさ」「すこやか」「老いとは何か」を考えながら、利用者の方々と一緒に成長し、経験の中から学んでいます。

利用者様の好み、希望、生活歴を理解することで、利用者寄り添った介護をさせていただいております。特に食事はなつかしい食べ物を提供するようにしております。